



## コロナ禍下において、今、青少年育成支援活動変革への柔軟な対応が必要な時！

2019年末からの新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2022年末の現在に置いて約3年の間、私たちの生活様式は急速な変化を続けている。青少年の変化は、学校閉鎖、屋内の活動制限は当然のこと、屋外でも自由に遊べ、触れ合うことができなくなった。その間、青少年は、スマホ相手に家に引き籠もり、時間を浪費している現実が今なお続いている。徐々に、感染症対策による制限は解除され、日常を取り戻しつつあるが、今後も、このような感染症が起これば、行動制限がいつ起こるか分からない。



会長 峠 テル子

たまたま、感染症による制限がある時期に青少年期になった子供たちは、対人関係を通じて自分を形成する機会や体験が得られず、心身の成長に影響を及ぼす。そこで、私達、青少年育成アドバイザーは、「ファシリテータとして子ども達に豊富な体験の場を提供」を柔軟に提供する必要がある。

柔軟に提供するために、様々な知見が必要であり、その参考になる資料として、今年の11月8日に、全ての子供・若者が自らの居場所を得て成長・活躍できる社会を目指して内閣府より、～新たな「子供・若者育成支援推進大綱」～が発刊された。その内容をZOOM会議が全国の青少年育成支援に携わる人々を対象に開催され、時を得た内容のZOOM会議の開催で、青少年育成支援活動者の背中をそっと押して頂く会議だった。

私が特に勉強になったのは、萩原建次郎著「自立志向の社会が生み出す生きづらさ」で現代社会での「自立」の意味を問う、として【実社会に出ることが円滑に社会を回すために“強いられた外発的な自立でしかないことを子ども時代から身に沁み込ませて来た結果として、実社会（有用性・生産性の世界）を目前にして若者たちの身がすくみ、ひきこもるのも当然と言える。人間の生を個人の能力発達と自己責任・自己決定、自立原理で追い立てることは、子ども・若者の生きる意欲や自尊感情を奪う結果しか生まないことに早く気づく必要がある】。

この文章は、日々若者の自立の手助けをさせて頂いている青少年健全育成支援活動者にとって青少年が「自ら立つ」「参画」する事へのファシリテータとして大変参考になった。もっと読み込んで活動の手引書とし、今まで以上に柔軟な対応で青少年の育成に役立つことを目指していきたい。

★尚、この内閣府の〔全ての子供・若者が自らの居場所を得て成長・活躍できる社会を目指して〕～新たな「子供・若者育成支援推進大綱」～は、全日本青少年育成アドバイザー連合会のホームページにアップさせていただきます。



子どもが伸びるチャンスを  
活かそう

## 11月27日 愛知県青年の家にて専門委員会開催

※ 認定委員会  
前期通信講座受講者の審査（4名）

※ 継者養成委員会  
令和4年度アドバイザー養成講座開催に向けて

- 1 コロナウイルスの感染拡大が気になるが自粛要請が無ければ、開催の方向で準備する
- 2 受講者の募集について  
各アド会4名以上の受講者募集が必要
- 3 講習会場等の見学



※ 広報委員会  
アドバイザー連だより第30号発行について

- ① 発行予定 12月中旬
- ② 原稿の募集 概ね400文字 写真添付
- ③ 脳科学レポート（東京アド会員 池田優美子氏著）の投稿について  
アド連だよりで紹介して、レポートについてはアド連のホームページに掲載して活用する

参加者：萩原顧問 山本顧問 峠 会長  
宇野委員長 宮後事務局長

※ 法人化・組織対策委員会

- 1 令和5年度役員改正に向けてブロック及び都道府県アド会の会長・副会長・事務局長改選変更の報告依頼について
  - ◎ 各ブロックの会長・副会長が決定すれば、事務局に連絡する（近畿ブロックは決定している）
- 2 法人化に向けた最終検討について
  - ◎ アンケート調査や委員会で検討したが、定款等の検討まで至っていないので次年度の理事会に継続検討案として引継ぎたい
- 3 今後の組織運営対策について
  - ◎ 次期会長、理事の組織運営に期待したい

## 11月28日 第3回理事会開催

- 1 善行特別表彰の推薦について
  - ◎ 金賞1名・銀賞2名推薦・・・・・・・・承認
- 2 アド連会計収支報告（10月末現在）・・・承認
- 3 専門委員会検討事項結果の審議・・・・承認



## 内閣府の新たに示した令和3年度 「子供、若者育成支援大綱の動向を探る」

群馬大学名誉教授  
全日本青少年育成アドバイザー連合会  
顧問 萩原元昭

- I 「自らの居場所」を得て成長活躍できる社会を目指す」を大綱のメインテーマに掲げているその根拠となる理由として
- ① ここ3年間に子供、若者の「ホッとするとまた安心できる居場所がない」と応えたものが3.8%から5.4%に増加
  - ② 特に自分の部屋、家庭、インターネット、地域、職場のいずれも減少していること
  - ③ 居場所の数の少ない子供、若者ほど「自己肯定感」「今の充実感」「将来への希望」「チャレンジ精神」「社会貢献意欲」が少ない傾向を上げている。

- II 新たな課題を克服、解決するための基本的な施策として「社会への参画」とwellbeing（最善の利益）視点」を上げている点に注目したい。  
「社会形成に参画する態度」「世界、日本、地域社会を切り開いてゆくのを応援」「子供、若者の参画促進」「政策形成過程に子供、若者の意見が積極的に反映されるよう審議会、懇談会などの委員構成に配慮すること」「意見、募集や直接参画型の意見交換]

などを施策の中に例示している。

- III 児童虐待、いじめ、自殺、不登校児の増加傾向の課題克服の手法として、幼年、子供、若者のウェルビーイングの観点から幼年、子供、若者も自己意識や周囲の環境、家族支援の実態など各課題に関する複雑で多様な状況の実態の解明のため、多様なデータに基づいて「参画指標を設定し、可視化することで、幼年、子供、若者のインデックスボードを作成し、総合的にまた多面的に評価し、それに基づいて、社会全体の支援策に結びつけていく新たなアプローチの方法を採用した点に注目したい。そのため内閣府のホームページ（HP）に掲載された幼年子供若者の意識、取り巻く状況、自己、周囲、支援状況などの「インデックスボード」のデータの利用を期待している。

地域の幼年、子供、若者一人残さず支援を要請されているアドバイザーの皆さんが、この令和3年度内閣府の大綱の基本的指針である幼年、子供、若者の参画の促進とその支援としての一人ひとりのウェルビーイング（最善の利益）を保障する「ホッと 安心して元気になる一人ひとりの幼年、子供、若者の自身の意向に基づく異なる「居場所づくり」をいかに支援したらよいか参画をファシリテート（手伝う）する枝の創意工夫に内閣府の幼年、子供、若者に関するHPのインデックスボードの受信、情報提供の利用を地域の子供達のウェルビーイングのために大いに利用されることを私も含めて期待して結びたいと思います。

（参考となる資料）

「すべての子供、若者が自らの居場所を得て成長活躍できる社会を目指して  
—新たな「子供、若者育成支援推進大綱」

令和4年11月8日 内閣府



# アドバイザー会からのお便り

貴方の取組を5・7・5・7・7の5句31音にしてみませんか？

SDGsの取組短歌を募集しています。

短歌は事務局までmail・faxでお願い致します。

## 愛知県アド連SDGsの取組み短歌集

- 1 青少年アドバイザーの活動は考えればSDGs (宇野晃)
- 2 定例の役員会へ行く手段たくさんあるも電車を選択 (宇野晃)
- 3 日本にもったいないの文化あり先人の知恵原点回帰 (峠テル子)
- 4 温暖化風呂の残り湯大忙し洗濯打ち水亀のひとつ風呂 (中村美幸)
- 5 断捨離で少なくなりし洋服の替わりに増えるエコバックらよ (中村美幸)
- 6 未来への17項目ひとつずつ心に決めて実践している (村野政章)
- 7 あと8年今だけ金だけ吾だけを止めて迎える2030(にいまるさんまる) (村野政章)
- 8 食べ残しSDGもったいないよ好き嫌いせず完食しよう (成瀬眞佐子)
- 9 目標はSDGs個人での動き取り組む姿勢重要 (水田文和)
- 10 その都度の消灯などで子供らの未来に向けて心掛けている (村田靖子)
- 11 便利さと快適さへの求めすぎ振り返り見るSDGs (村田靖子)
- 12 プラ包装便利生活喜ぶも生態系の嫌われもの (田邊春枝)
- 13 買い物に今エコバッグ昔かご半世紀前と何か同じね (田邊春枝)
- 14 孫かわい未来を思い少しでもじいじばあばもSDGs (辻本弘美)
- 15 この地球(ほし)の永遠(とわ)に続けと祈るごと水の一滴心に置いて (後藤冷子)
- 16 子等の背に色とりどりのランドセル一年生の性差なき春 (後藤冷子)
- 17 SDGs暮らしを守る合言葉地球を守り命を守る (池野定雄)
- 18 SDGsそれはみんなの合言葉守ろう暮らし守ろう命 (池野定雄)
- 19 よく知りてSDGsよく使い子等との学び共存のこと (峠テル子)
- 20 アサガオや風に吹かれてSOS白い斑点教えてくれる (渡邊美智代)
- 21 風呂の湯で花と野菜をいくつしみ花はきれいにトマトいい味 (大村鍾造)
- 22 免許返し老後の事故を少なくし歩き健康自転車壮快 (大村鍾造)

### 【基本とポイント】

- ①いのちを慈しむ気持ちを創作の立脚点とすること。
- ②自分の実体験から創作の題材を探し、実感に基づいた表現をすること。
- ③心の揺らぎを感じた場面や事柄をしっかりと捉え、その情景などを具体的に言葉にしていくこと。
- ④平易な言葉を用いること。
- ⑤散文的な説明に陥らないように心がけること。

### 【身につく力】

- ①豊かな情操が培われる。
- ②自己を客観視する力が養われ、自己理解が深まる。
- ③お互いの作品を読むことで、想像力が鍛えられ、他者を理解する力が高まっていく。
- ④表現力や語彙力が身につく。



# 子ども達が「自ら生きる力」を体感する 紙芝居・青少年育成支援活動



愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会  
会長 峠 テル子

## 1, 子どもも、保護者も体験参画

今年の10月8日(土)に愛知県アド連主催のアドバイザーフェスティバルを名古屋市内にある鶴舞公園で開催した。

出し物は

①紙芝居、②風車、③割りばし飛行機、④竹鉄砲、⑤笛、⑥紙飛行機、⑦縄跳びなど7つの出し物である。アドバイザー会員が15名と中部大学の3年生5人とで役割分担した。中部大生の一人はキャラクターのマントを着て宣伝マンとして公園の周囲を5周し通る人に声を掛けチラシを配って呼び込みに徹した。

公園には、子ども連れのご家族が愛知県内から集まり、会場に650人も参集した。これは何と云ってもが学生の宣伝効果である。7つのブースとも「子どもと一緒に作りたい」というご家族が長蛇の順番待ちである。

## 2, 中部大学3年生による紙芝居の読み聞かせのファシリテータ

今回も私は紙芝居担当である。テーマ「スマートフォンの使い方のルールを作りましょう」は、過去7年間継続して学生たちとファシリテータしてきた。

(1) 毎年、イベント初体験の大学3年生との内合わせ、ゼミ担当の伊藤先生の御指導の下、約6時間、話し方、演じ方についての技法と練習を事前に実施した。

特に、子ども達がスマホを正しく有意義に利用するために、紙芝居を通じて、スマホ漬けになっている多くの子供たちに「ルールを作りましょう」と、子ども達に訴える必要性和その技法について大学生に熱く指導した。

(2) 紙芝居「子ども体験の参画」に見られた、学生のファシリテータの技

- ① イベント会場の設営の手助け
- ② 集客のためのチラシ配りの支援活動
- ③ あるアド会員の「紙芝居を読んでみる？」との呼びかけに、「ハイ、読みたい!」と複数の客席からの挙手! そのファシリテータ。
- ④ 実際、飛び入りの子供が紙芝居を始めると、大学生がマイクの角度、紙芝居の抜き方、などファシリテートしている。
- ⑤ 会場に居る子どもを抱っこしている母親にアド会員が「如何ですか?」と声を掛けると「ハイ、挑戦したいです!」との返事です。会場は盛り上がりま  
す。
  - ・ 母親は、先の子供に負けじと、感情を込めて演じています。会場は拍手喝采です。
  - ・ 終ると、母親の下に「ママ、上手!」と幼児が飛びついてきた。また、お姑様も「プロみたい、感動したわよ」と駆け寄ってきて肩を寄せて興奮が収まりませんでした。
- ⑥ アド会員が、「経験があるのですか?」の問いに「いえ、初めてです。良い経験をさせて頂きました。有難うございました」との言葉。[此方こそ、有難うございました。]とアド会員も頭をさげていた。

## 3, 「子どもの参画」推進の要

\* ファシリテータとしての、創意工夫の必要性和環境づくり

これからの青少年育成支援活動は、子どもたちが参画し、アドバイザーがそのファシリテータ(手助け人)として、地域の子ども、一人も取り残すことなく、自分がやりたいことを自己決定でき「自ら生きる力」を体感できるような子ども体験教室などの開設が大事だと痛感した。

\* 「生きる力」とは、人間の本質としての「能動性」「有能性」と「対人的なコミュニケーション力」をいう。

#### 4, 中部大学生の参画レポート (抜粋)

(Sさん)

紙芝居と言えども、一方的に読み聞かせるのではなく、子どもの保護者まで巻き込んで、参画型で楽しませることが出来たことが、今までにない経験であった。

(Hさん)

今回のイベントはとても楽しい雰囲気であった。気を付けたことは、子ども目線で話をして、怖がらない様に接した結果、普通接することの無い小学生や幼稚園児としゃべる機会が出来、楽しかった。

(Nさん)

私は広報担当で、宣伝のために広い鶴舞公園の周りを5周した。歩いている家族連れに声を掛け、パンフレットを配り、その結果殆どの人々がイベント会場に来てくれた。どの様に声掛けをしたら良いのか、試行錯誤しながら集客に努力した。色々苦勞もあったがこれからの私の人生にとって、良い経験になったと感じている。

(Kさん)

我々大学生は、夫々役割を決めてこのイベントに臨んだ。しかし、どのブースも長蛇の列が出来ており、夫々が、臨機応変に考えて行動した。この対応がアドバイザーの方々から「助かります」とお礼の言葉を頂いたとき、「私の人生にとってこのイベントに参加させて頂いたことは宝になると思った。

(Sさん)

今回のイベントで子ども達と仲良くなり、紙芝居を観て貰う側から、紙芝居と一緒にやってもらう事が出来た。共に参画しながら学びを深めて行く。この事は、現代の教育ではとても大事だと学んでいる。一方的な教育ではなく、私たちがファシリテータとなって子どもたちと紙芝居をやる事が出来た。今回のイベント参画はとても良い経験になった。

#### 5, まとめ

大学生のファシリテータとしての感想の内、子どもや保護者まで巻き込んだ、参画型で楽しませることが出来た経験」「普段接することが無い幼稚園児、小学校の児童としゃべった経験」「集客で公園を五周した成果として殆どの人をイベント会場に案内出来た喜びの体験」「臨機応変に考えて行動してアドバイザーから感謝の言葉を頂いた体験」「紙芝居を観て貰う側から、一緒にやってもらう側に参画して頂いた体験と協働の参画体験」等、大学生からレポートを頂いた。

このイベントで、これから、地域で活躍する我々アドバイザーがファシリテータとして、学生から数々の示唆を頂いたことに感謝している。





# 兵庫県青少年育成アドバイザー協議会 会長 芝 和子

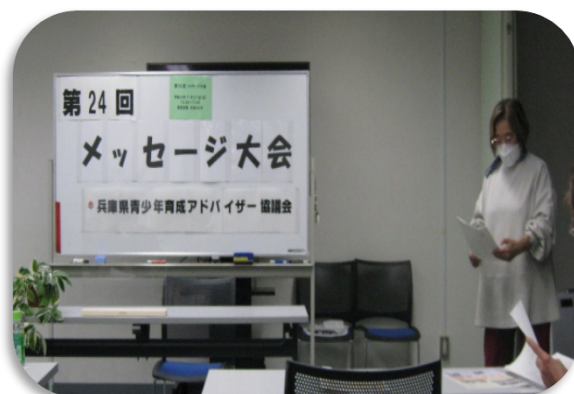


阪神淡路大震災後、神戸の復興を願いメッセージを発信している「第24回メッセージ大会」を11月27日（日）に 兵庫県民会館 青少年交流プラザにおいて「自己啓発・発表の場」をテーマに10名の皆様にメッセージを発表していただきました。

## 発表

- ①「さて、どうしよう～」
- ②褒めて育てた我が家の場合
- ③ドラえもののポケット
- ④子ども達と一緒に未来を！
- ⑤（SDG s）始めました
- ⑥趣味で人生は豊かになる
- ⑦話さなければわからない
- ⑧子どもの人権

芝 和子  
三好恵子  
岩永知子  
黒谷静佳  
青木芳子  
岡田ちひろ  
荒井 勳  
後藤みなみ



## 発表後の感想・交流会

**休憩をはさんで、それぞれが話足りなかったこと、聞きたいことや、聞き逃した話を聞きたいな～の声もあり会話が弾みました。**

- ・竹パウダーに関して、皆さんから聞いた話を生活に取り入れたい。
- ・子どもがSDG sに取り組んでいる。震災後の復興が良くわかった。
- ・子育てが間違っていたかも？子どもの主体性を育てるのが大切。
- ・子どもたちには、いろいろ経験をさせる事。
- ・食の安全を若い人に聞いてほしい。次世代を守るために。
- ・コロナで体力、精神的に衰えている。
- ・人との会話、趣味を！ 子どもをもう一度育てたい。
- ・定年後、テニス、英会話を始めました。



# アドバイザー会員からのお便り

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

清水 成眞

## アドバイザー養成講座



令和4年11月26日(土)に、倉吉市立上井コミュニティセンターにおいて、令和4年度の鳥取県青少年育成アドバイザー協議会主催による「鳥取県青少年育成アドバイザー養成公開講座」が開催されました。

コロナ禍による影響で実に3年ぶりの開催でした。会員一同、準備を含め、楽しみにしていた公開講座でした。受講生は8名でしたが、非常に充実した公開講座となりました。

講義1では、「青少年を取り巻く現状」と題して、会員であるNPO法人子ども未来ネットワークの竺原晶子さんが、「見えなくなっていく青少年」の現状について、さまざまな事例を通して講義をしていただきました。

講義2では、会員である元校長の西上洋治さんが、「青少年育成アドバイザーの役割」として講義され、「気づく感性」「できることを思考」「実行する意欲」という観点から受講生個人の考えや思っていることを実際に実技しながら講義をされました。

講義3では、鳥取市立明治小学校教頭の寺谷孝志先生が「コミュニケーションスキルアップをして」と題し、～大人こそ活かそう自分の持ち味～という観点で、5人ずつに集まりワークショップをいたしました。

今後は、同じ仲間として一緒に活動することを胸に解散をいたしました。





# 新しい時代の新しい力 脳科学を生かした子ども達の心の育みを



青少年育成アドバイザー東京会  
元東京都保育ママ 池田優美子

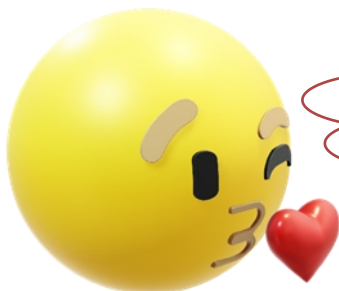
子ども達は私達大人が経験していない時代をやがて迎え、既存のものが破壊され、新たな視点に立ち再生していく変革の時代がやってきます。この変革を乗り越えていく一つの力として誕生直後の敏感期にある自然からの助力(脳科学)を受け入れ、赤ちゃんを育てた時の力があります。

しかも、この力は思いのほか「容易」に子育てができ、成果は莫大で画期的な力です。赤ちゃんの心は育む時期と順序が用意され誕生してきますが、助力に寄り添い必要な環境を与えることで、その心が育つ時期にその心が育ちます。人の思考の方向性は感情の動き方に影響されますが、赤ちゃんの「喜怒哀楽」の土台は6ヶ月までの敏感期に育ち、感情の方向性は思春期に繋がります。

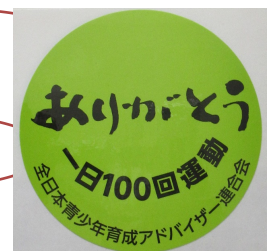
私たちアドバイザーが子ども達の「敏感期」を認識し、大勢の力を持って子ども達の心の育成の向上を、広く社会に訴えていけたらと願っています。

## 事務局からのお知らせ

- ※ 投稿者池田優美子氏のレポートについて  
『子ども達の新しい力 20年後の日本の未来の力 それは 思春期に繋がる赤ちゃんの敏感期の特別な力(脳科学)』を現在編集中です。編集が終わりましたら全日本青少年育成アドバイザー連合会ホームページに掲載いたしますので暫くお待ちください
- ※ 令和4年度青少年育成アドバイザー養成講習会申込期日の変更  
養成講習会は、「愛知県青年の家」で開催いたしますが、受講申込期日を令和5年1月29日から同年1月24日までに変更いたします。
- ※ ありがとうシールは、シール小(5枚1組)10円 大1枚100円で事務局で販売しています。(送料は別途必要です)



『ありがとう一日100回運動』  
ありがとうシールの活用を



ありがとうシール  
(大) 見本

『子どもの人権が守られ、

だれ一人取り残さない温かい社会へ』

兵庫県青少年アドバイザー協議会

幹事 後藤 みなみ



1989年採択された「子どもの権利条約」は、2020年現在国連加盟国数を上回る196か国で締結され、日本も1994年に批准しました。子どもも、大人同様に基本的人権を保障されています。子どもは一人の人間として最大限に尊重され、大人や社会が守られなければなりません。なにより子どもたち自身が、自分たちの持つ権利について学び、声を上げていくことがとても大切です。

2022年6月に可決された、「こども基本法」に基づき、「こども家庭庁」が2023年4月1日に発足します。厚生労働省・内閣府・警察庁の関係部局を統合し、データの連携で今まで気づけなかった要支援児童の発見、虐待・自殺など重大な事件が起きる前の早期発見が期待されます。

しかし2022年10月27日付の神戸新聞で、公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の調査によると、周知不足で7割は子ども家庭庁ができることを「知らない」と答えています。また、子ども家庭庁に優先的に取り組んでほしい課題は、①いじめ防止②無料または安い値段で学習できる場所を増やす③虐待を無くすための保護者への支援の順とわかりました。

## 子どもの人権課題と現状

主な人権課題として、いじめ・体罰・児童虐待・性被害等、子どもが被害者となる事案が後を絶ちません。また、子どものも貧困やネット依存症等子どもをとりまく環境も深刻化しています。家庭や学校、地域の中で子どもたちの人権感覚を育み、子どもが安全で安心して暮らしていける、自己実現できる居場所づくり、個人としての主体性が認められるよう、私たち青少年育成アドバイザーが支援していくことが大切です。

## いじめ

文部科学省が実施した2020年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は6万6201件、いじめの認知件数は51万7163件です。小・中・高等学校から報告のあった自殺した児童生徒数は458人で、調査開始以降最多となっています。2021年度不登校（30日以上長期欠席者）は24万4940人（前年度19万6127人）、小・中学校における長期欠席者数41万3750人（前年度28万7747人）と9年連続増。新型コロナウイルス感染症の影響で学校にいけていない子どもは前年度2倍増の5万9316人（前年度3万287人）となっています。また、2021年に警察がいじめに起因する事件で検挙・補導した人員は198人でした。

最近の子どものいじめは、メールや掲示板等に加え、SNSや無料通信アプリ等新しい形態によるインターネット上などで行われているため、見えにくくなり、些細なきっかけから深刻ないじめへとエスカレートすることが少なくありません。それに伴う不登校や自殺なども深刻な問題になっています。学校、家庭、地域が互いに連携協力し、お互いの異なる点を個性として尊重する意識を養い、すべての子どもがいじめを行わず、いじめを放置しないよう、私たちが未然防止や早期発見・早期対応を取り組んでいくことが大切です。

## 体罰

法務省の人権擁護機関が調査救済活動を行う人権侵犯事件においても、2021年には、学校におけるいじめ事案が1,169件、教育職員による体罰に関する事案が51件、児童に対する暴行・虐待事案が253件と高水準で推移しています。体罰は児童生徒の心身に深刻な悪影響を与え、力による解決方法を助長し、いじめや暴力行為等の土壌となる恐れがあり、いかなる場合でも決して許されません。

## 児童虐待

近年乳幼児や児童を親が虐待し、中には死に至らせる痛ましい事件が後を絶ちません。厚生労働省の調査によると全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は、2021年度には20万7659件と過去最多。「児童虐待防止法」などが改正され、体罰禁止の法制化、児童相談所の体制強化など、子どもの権利条約の守られる権利で、私たちは子どもを暴力から守らなければなりません。

## 性被害

インターネットやSNSで誹謗中傷する表現や差別を助長する表現、個人や団体にとって有害な情報が掲載、拡散されたり違法ダウンロードなどで、子どもが加害者や被害者となり、トラブルに巻き込まれるなど人権にかかわる問題が深刻化しています。特に子どもが保護者の目の届かないところで犯罪被害などのネットトラブルにあふ事例が多発。青少年の性を売り物にしたいいわゆるJKビジネスの出現やSNSなどを通じた児童ポルノ自画撮り被害の増加など、青少年の健全な育成が阻害される危険が増大しています。

厚生労働省研究班が2018年に発表した調査結果によると、インターネット依存が疑われる中高生が全国で推計93万人に上り、7人に1人に。ネット依存は中高生の12～16%にあたり、スマートフォン（スマホ）の普及を背景に2012年度調査時51万人から倍近くに増えています。

「児童買春、児童ポルノにかかる行為などの規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律」においては、処罰する罰則が設けられています。「教育職員等により児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」も施行されました。また「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備などに関する法律」が改正され、2018年2月から18歳未満の青少年利用者に対して有害情報のフィルタリング有効化措置を行うことなど携帯電話業者等に義務付けられました。

最後に、日本で「相対的貧困」の状況の子どもが7人に1人います。すべての子どもの命が守られ、人間らしい暮らしをする権利があります。また、文部科学省の調査によると全国で外国にルーツ持つ子どもは4万3千人以上在籍、うち日本語教育の支援のない子どもは約1万人いる課題もあります。すべての子どもに安全で安心な生活が保障され、誰一人取り残さない社会の実現を可能にする「子ども家庭庁」に期待したいところです。

参考文献：

- ・ 「人権の擁護」 法務省人権擁護局 2022.8発行
- ・ 「人権文化をすすめるために」（公財）兵庫県人権啓発協会 2020.3発行
- ・ 文部科学省・厚生労働省のホームページ

### 【編集後記】

年の瀬も押し迫ってまいりましたが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

皆様のご協力とご理解を賜りまして本号を発行することができましたことに感謝しています。誠にありがとうございました。

養成講習会で元気な皆様とお会いできることを楽しみにしていますので養成講習会にご参加いただくようお願い申し上げます。

ご多忙な時期につきどうかご自愛くださいますよう、皆様のご健康をお祈り申し上げます。  
事務局長 宮後弘満拝